新しいことに次々チャレンジ

Cotton Wool webプログラマー

森 敬祐さん（33歳）

webプログラマー ← 服飾デザイナー ← AD

2002年2月 勤め先が廃業し、退社。CGI映像などの制作・販売を行う

2000年4月 web制作業務を始める

2000年11月 ショップ関係のアパレル業界の仕事を任されている

1999年2月 ショップ「COTTON WOOL」名古屋店開店時にオープン

1998年12月 (有)コットンウール設立。オリジナル・カジュアルアパレルの販売「TONE WOOL」

1997年 パルプ系の名古屋に戻り、洋服の縫製工場に転職

1993年 会社倒産。出身地の名古屋に戻り、アパレルショップに就職

1991年 縫製工場を作る会社に入社。ADとなる

1991年3月 大学（経営学部）卒業

未経験の仕事には、世界が広がる楽しさがある。人生、働く時間が多いんだから、好きなことをやっていたい。

テレビ制作会社AD、洋服ショップ店員、縫製工場営業、服飾デザイナー兼ショップオーナー、アパレル会社ショップ店長、webプログラマー……これが森さんの10年間の職歴だ。転職が一般的な世の中になってきたとはいえ、これだけ転職を繰り返すことは、やはり社会的には不利な面が大きい。しかし森さんの転職話には、プラスのエネルギーが満ちている。それは、森さんの転職には一本のスジが通っているからかもしれない。テレビ番組作りも洋服作りもwebページ制作も、表現手段が異なるだけで、森さんにとっては「クリエイティブ活動」の一環なのだ。「自分の作品を知らない人たちに見てもらえる、ということが好きなんだと思います。学生時代には映画作りをしたいと思っていたので、それがテレビ番組制作会社への就職につながりました」

ADからディレクターに昇格という話が出た頃、運悪く勤め先が倒産。テレビ業界と東京に見切りをつけ、出身地名古屋に戻ってきた。そして、学生時代にアパレルショップを訪ねたところ、タイミングよく採用。もともと洋服が好きだった森さんは、ショップ店員として働いているうちにオリジナル服を作りたいと思うようになる。そこで洋服店を辞め、洋服作りのノウハウを学ぶために縫製工場に転職。「配属先は縫製でしたが、工場の社長さんたちに縫製の技術を教えてもらい、自分でミシンを買って練習しました」

1年間でノウハウを覚えた森さんは、オリジナルブランド「COTTON WOOL」を立ち上げ、洋服づくりを開始。ショップもオープンさせた。オリジナル服は話題になり、マスコミにも紹介された。だがオープンして一年半、経営は順調だったにもかかわらず、やむを得ない事情で閉店を余儀なくされることに。

それなんとき、取り引き先だったアパレル会社から、「うちに来ないか」と誘われる。仕事内容は販売とwebページの制作・管理。実は、森さんは高校生の頃からパソコンが趣味、以前洋服店に勤めていたときも、データベースやPOSシステムの管理などを任されていたのだ。webページ制作の知識は自分の店のページ制作程度。雑誌で紹介され、他店からwebページの制作を依頼されることもしばしだった。

今年に入り、勤務先のアパレル会社が廃業することが決まると、森さんはフリーのwebプログラマーになることを決意。自宅の一室を事務所にし、中小企業やショップを中心に、webページの制作業務を行っている。

「今はSOHOだけど、この先組織にして、webシステムを作る仕事がしてみたいと夢を膨らませている」

動務先の倒産など周囲の状況に翻弄されているように見える森さんの転職。人生だが、夢を語るその目には、自分の足で歩いている自信が確かにある。

ミュージシャンNAHKIの公式サイト（http://www.nahki.com）も手掛けている森さん。大の音楽好きでもある森さん。じつは昔から温めている夢はまだまだたくさんあるのだそう。Cotton Wool ホームページ：http://www.cottonwool.jp

森さんからの転職アドバイス

「自分はこの仕事しかできない」と、業種にとらわれずそこはダメ。どんなことでも1年続ければエラそうな顔ができるので、やっぱりだけを見て転職しましょう。未経験への転職もヤル気さえあれば何とかなります。

成功へのポイントはココ！

不可能そうな転職を成し遂げた人に、もし共通する才能があるとすれば、それは努力する才能ではないだろうか。出産をパネに頑張った石井さん、インターンシップの延期をチャンスに変えた林さん、レタス栽培の失敗を「そのうちなんとかなる」と乗り越えた久野さん、動務先の倒産や廃業をステップアップのきっかけにした森さん……。今回取材した転職経験者4人は、それぞれの事情は違うものの、人一倍努力しているという点では共通している。決して特別な能力があるわけでも、スーパーバイテンションなわけでもない。自分の気持ちに忠実に、目標に向かって、地道に努力しているだけだ。

とはいえ、まきうすでできないのが努力。実は努力できる才能というのは、スゴイ才能なのである。その努力を引き出すのは、やはり、何かを成し遂げたいという強い思いしかない。［Tone Wool］代表の日比仲也さんは、林さんのインタビュー後に、「上手下手よりも熱心さが大事。どんなことでもヤル気さえあれば2年で修得できるものです」と話してくれた。心の底から夢中になれるモノに出会ったとき、本物のヤル気と一生懸命努力する才能が開花し、不可能を可能に変える力が湧いてくるのかもしれない。